



# 妖怪を使った自然災害の伝承

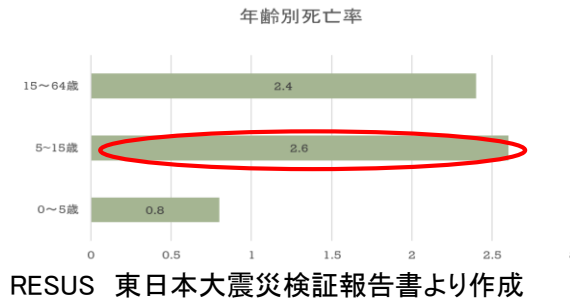


背景 - 日本の自然災害の数は年々増えている

減災の重要性→子供の頃から災害を知ること  
(東日本大震災での年齢別死者数)

5～15歳の死亡率が高い

→津波の怖さ、逃げる場所を知らない



## リサーチクエスト

口頭伝承によったほうが子供にわかりやすく伝わり、人的被害が減るのでは？

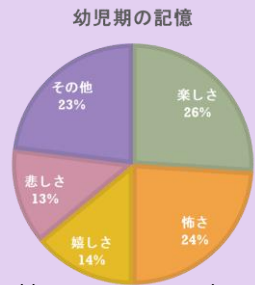
仮説① - 地域伝承を媒介とする自然災害伝承に必要なもの

(1)風土の反映

EX) 山口県：地すべり、洪水の伝承

(2)忘れない

子供のころの記憶  
→怖さ、楽しさ

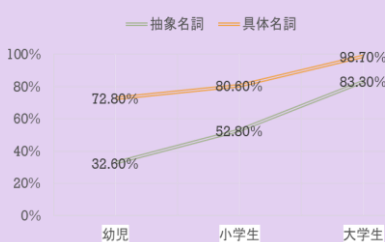


<https://www.riken.jp/press/2014/>

幼児期が一番恐怖を感じる

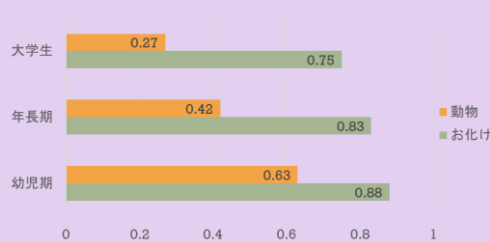
→現象より物体の方が想像しやすい

言葉からイメージした物の合致率



イメージ能力の個人差と認知

怖い・怖くない判断の平均値



幼児期における怖いもの見たさの心理の発達

仮説② - 妖怪伝承を媒介とする妖怪とは？

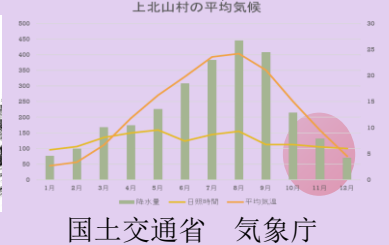
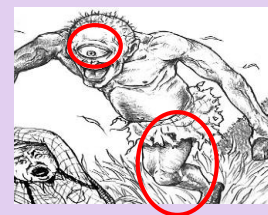
「漠然とした恐怖を警戒心へ変貌」

(1)風土の反映

EX)

奈良：一本だたら(11月下旬に出没)

- ・容姿：鍛冶職人の特徴(たたら)
- ・伝説：冬に山に入る人への警告



(2)忘れない

妖怪への印象：「怖い・気持ち悪い」  
→「恐怖」の物体化

地域性 + 物体化 = 理想の伝承

## まとめ

子供の記憶に残りやすく、地域の特性をもつ「妖怪伝承」の利用で自然災害の記憶は長く受け継がれ、子供の被害者を減らせる

展望 - 兵庫県での実証

南海トラフ地震の危険性が重視→「妖怪を使った防災教育プログラム」を作成

引用文献・参考文献

「日本妖怪考」著：マイケル・ディラン・フォスター (デューク大学教授)

妖怪伝承を知的資源として活用した防災教育プログラムに関する一考察：高田知紀

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejeep/75/1/75\\_20/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejeep/75/1/75_20/_article/-char/ja/)

